

新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究 課 題	茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究
計画期間	平成28年度～29年度 2年間
背 景 必 要 性	近年、食肉由来サルモネラ属菌の薬剤耐性化の報告が著しく、公衆衛生上、臨床上の両側面から問題視されている。食肉由来サルモネラ属菌の薬剤耐性調査研究は東京都をはじめとして、多くの自治体にて実施されているが、茨城県においては近年調査がなされておらず、現状を把握する必要がある。
目 的	茨城県内流通食肉から検出されるサルモネラ属菌に対して薬剤耐性検査を行うことで、県内における薬剤耐性サルモネラ属菌の実態を調査する。
計画内容	<p>茨城県で実施している食肉の収去検査において、過去4年間（平成24～27年度）で食肉から検出されたサルモネラ属菌53株に加え、平成28年度収去（予定）検体から検出されるサルモネラ属菌を用いて行う。</p> <p>平成28年9月～平成29年8月にかけて、①薬剤感受性試験（薬剤11種）、②薬剤耐性遺伝子検出（βラクタマーゼ関連遺伝子、キノロン耐性遺伝子）、③分子疫学解析（①、②の結果に応じて）を行う。</p>
研究目標 （達成しよ うとする成 果及びその 活用方法）	サルモネラ食中毒は件数・患者数ともに依然として多く、公衆衛生上問題となっている。茨城県内で検出されるサルモネラ属菌の薬剤耐性を調査し、その実態を探ることで公衆衛生関係者に役立つ情報を集積することが出来ると考えられる。

事前評価結果報告書

平成 28 年 12 月 6 日

調査研究課題	茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究
--------	---------------------------------------

評価項目	評価	意見	備考
①必要性	5, 5, 5, 5, 5 4, 4 平均評価点 : 4.7	外部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・サルモネラ食中毒は現在においても我が国の最重要項目の一つであり, 行政上の重要課題である。 ・サルモネラ症の予防, 治療に大いに貢献できる。 ・肉類 (特に鶏肉) のサルモネラ菌の多剤耐性状況の把握は重症化予防に重要である。 内部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握の必要性が認められる。 ・重要と考える。 	
②目的の適合性	5, 5, 5, 5, 5 4, 4 平均評価点 : 4.7	外部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・サルモネラ属菌はいずれも自然界に広く分布し, 感染症の原因菌分布解明のため, また, 治療のためにも県の衛生研究所が行うことが相応しい。 ・畜産県でもある茨城県にとって重要な研究課題である。 ・県内で検出されたサルモネラ菌の薬剤耐性を調べることは県の食品衛生と実態把握に重要である。 内部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・国と連携しながら行うべき。 	
③計画内容等の妥当性	5, 5, 5, 5, 5 4, 4 平均評価点 : 4.7	外部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・研究期間は2年間であり, 3項目に分けて計画している。研究費は外部資金による少額の助成で賄うこととしており, 費用対効果等のバランスがとれたものである。 ・過去4年間の株数から予想される70株程度の検体数は薬剤感受性と薬剤耐性遺伝子の検出を行うには妥当な数である。分子疫学解析から感染源や経路の情報が期待される。 ・薬剤耐性遺伝子の検査期間が短すぎないか要検討。 内部委員 <ul style="list-style-type: none"> ・保有している菌株の活用が図れる。 ・農政部門との連携が必要である。 	

<p>④目標の達成及び活用可能性</p>	<p>5, 5, 5, 5, 5 4, 4</p> <p>平均評価点：4.7</p>	<p>外部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究内容は十分に熟達されていると考えられ、目標の達成とその成果は有効活用されると期待する。 ・薬剤耐性サルモネラ菌汚染の実態は人のサルモネラ症のみならず畜産行政においても重要な課題である。 ・治療への応用が期待される。他県や全国と比較することにより県内の問題点が把握でき、対策に繋がると期待される。 <p>内部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・是非、活用していただきたい。 	
<p>⑤総合評価</p>	<p>5, 5, 5, 5, 5 4, 4</p> <p>平均評価点：4.7</p>	<p>外部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療に貢献でき県内医療機関にその成果を積極的に発信することを期待する。また、少額であっても民間研究費を獲得したことは高く評価できる。 ・他自治体での研究報告があるが、茨城県の現状を把握する意義はあると思われる。 ・民間の助成金を獲得できたことが評価できる。データの公開により食品衛生の向上が期待される。 <p>内部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査実施は妥当と判断する。 ・プラスミドに関連する薬剤耐性は大腸菌など、ほかの腸内細菌に伝達される可能性を有すため、持続的なモニターリングと迅速的確な対策が必要である。 	
<p>⑥計画実施の評価</p> <p>A：実施相当 B：計画を見直し実施相当 C：実施不可相当</p>	<p>A：7人 B：－ C：－</p>	<p>最終評価</p> <p>評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)</p> <p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>	

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好